



大貫 昭彦

歴史ロマン・オンライン鎌倉 2 「鎌倉文化の個性」

2020 年 5 月 4 日



コロナ通信

医療崩壊を防ぐために自粛にこれ努めておられる皆様、こんにちは！ お疲れさまです。気分転換の便り第 2 弾です。今回は、鎌倉武士が生み出した文化、特に建物をテーマにお送りします。鎌倉の建築文化は、奈良・京都に学びながら、やがて独自性を発揮するようになりました。その伝統は、長く受け継がれ、明治時代に西洋建築が移入された時も、寺院建築の装飾を折衷した擬西洋建築を造り上げました。それらは長谷の鎌倉文学館のステンドグラスの新しさを取り入れながら、どこか宮大工の主張を垣間見せています。

中世は手探り時代

中世は、天皇・公家の支配体制に、突然武士が加わった時代です。当然価値観が変わり、多くの面で教科書のない手探り状態になりました。こうした混沌の中から、動乱の世を映した戦記文学が生まれました。保元、平治物語や平家物語などです。同時に真理を求める試行錯誤の果てに随筆文学が盛んになりました。代表作は方丈記、徒然草です。

仏教界にも、彫刻・絵画の世界にも変革の波が押し寄せました。

現実主義者が造った町

手元を覗いてみましょう。鎌倉です。頼朝の頃は、奈良・京都に倣うことに夢中でしたが、やがて独逸色がはっきりしてきます。政権都市としての鎌倉をどう設計するか。これは頼朝や御家人、京都からヘッド・ハントされた人材が、知恵と力を出し合って作り上げました。その結果、中国の長安や

京の都をベースに、現実を見据えた武士の町らしい防衛施設などを備えた鎌倉が生まれました。

公家の伝統に対するには、武家の結束が欠かせません。出土する大量廃棄物のかわらけや箸、折敷は寄り合い、酒宴が繰り返された証拠品でしょう。食文化も異なります。縁起を担いで四つ足を食べないなんて、鎌倉ではナンセンスでした？

鹿や狸、猪の骨は、市内各地から出土します。食用、骨や毛の利用、軍事訓練としての狩猟対象獣など。これらは宴会の肴にされ、鎌倉武士の体格をたくましくしました。



「鎌倉地図草紙」歴史探訪社より

寺院、武家屋敷の工夫

建物にも工夫が見られます。寺院建築は、中国の進んだ工法を採用しました。禅宗様式は資材の節約と景観上の理由、大仏様式は巨大建築に適した理由から取り入れられました。

武家の屋敷は、主屋（おもや）は規模の大きさ、権威付けの理由から寝殿造りをベースにし、家人の住居は簡素な掘立て柱にしました。それでも根元に地盤沈下防止の礎板を置きました。

庶民は掘立て柱、板囲住まい？

では庶民の家は？ 大半は小規模な掘立て柱に板囲い、あるいは地面を掘り下げて、板壁を組み上げ、道路面より少し高い位置に屋根を乗せた構造。ただし遺構はありません。

注目されるのは、500 基ほどの方形竪穴建物跡です。古代の竪穴住居と違い、床面が矩形（角がやや円弧もあり）、面積は 2～3 坪、特例は 20 坪。深さは場所により 1m 弱（大半）から 1.6m（特例）。床に鎌倉石や貝殻を敷いたものもあります。

方形竪穴建物は住居、倉庫、作業場？

方形竪穴建物は、庶民が暮らした海浜地域に多く見られますが、竈の跡がありません。石を敷き、堅牢と湿気対策したところから、貴重な輸入品などを保管した倉庫か、また職人の作業場か？ さてさて、この正体は？ どうぞ想像をめぐらせてください。参考までに歴史探訪社の「鎌倉地図草紙」のカットと大町で発掘された鎌倉石を敷き詰めた方形竪穴建物跡（鎌倉時代後期）の写真を添えます。

鎌倉の埋蔵文化財 21

Buried Cultural Properties in Kamakura 21

平成28年度発掘調査の概要



平成30年(2018)3月
鎌倉市教育委員会

方形竪穴建物